

科目区分：学校教育実践コース（家政教育専修），生活環境コース

授業科目名：食品学演習（2012）

学生による欧文論文輪講および論文紹介の試み（2年目）

家政教育講座 岡本威明

1. 授業の概要とねらい

授業科目「食品学演習」は，食品に関する論文の輪読および発表をすることで，生活者として必要な食品に関する基礎知識を習得し，また最新の論文を選択・発表し，質疑応答をするための能力を身につけることである。また，卒業研究に繋がる講義を目指すことをねらいとした。さらに，食品関連の工場見学を実施し，製造，販売，研究等の流れを体感させる。また，今年のテーマを愛媛県民に最も馴染みのある「ミカン」とした。

2. 受講生について

受講生は3回生家政専修より2名，生活環境コースの学生が18名登録し，合計20名の受講があり，授業途中から1名休学者が出たため最終的には19名の受講であった。教員個別の授業アンケートは最後の授業時間に実施し，18名分を回収し分析した。

3. 今年度授業の取り組み

第1回～2回 機能性物質の紹介

第3回～6回 欧文論文輪講

第7回～10回 和文論文の読解

第11回～14回 論文発表（1人15分）

第15回 工場見学（えひめ飲料）

の計15回講義を実施した。

4. 授業アンケートの質問事項

授業アンケートは，記述式（7項目）に分けて行った。

- 1) 初回，2回目の講義でふれたDHA・EPA・ミカン成分の話はどうでしたか？
- 2) ミカン成分に関する欧文論文輪講に関してはどうでしたか？
- 3) 各種学会誌から論文を選択し，発表したことに関してどう思いましたか？
- 4) 他の学生の論文発表を聞いてどのように思いましたか？
- 5) えひめ飲料の工場見学はどうでしたか？

6) 本講義内容は，これからの卒業研究に生かすことができそうですか？

7) 食品学演習全体を通しての感想と来年度の講義に向けての改善点等を明記して下さい。

5. 授業アンケートの結果

1)の質問結果：

すべての成分が普段よく耳にするものなので，受講生全員が興味を持った。また，ミカン成分に関する欧文論文を読む際の参考となり，学生にとって本講義の導入として最適であった。

2)の質問結果：学生の感想を以下に列挙した。

・率直に，自分でも英語の論文が読めるのだ！という驚きと，自信になりました。

・英語が苦手な私にとって英文を訳すことに精一杯になってしまっていて内容を理解できないところもありましたが，一つ一つ訳したあとに必ず先生が解説を入れて下さったので分かることも多くありました。

・グラフの読み方や有意差検定の見方などはこれから論文を読んでいく際の勉強になってよかったです。

・英語が苦手なせいもありますが，訳すのが大変でした。しかし，みんなで読み切ったときの達成感と内容が理解できた嬉しさは大きかったです。いい経験になりました。

3)の質問結果：

・自分の興味のある分野から選ぶことができたのでよかったです。また，10分以上とわりと長く発表する機会はなかなか無いので良かった。

・発表に向けて読むたびにいろんなところに疑問がわき，調べて読み直して，を繰り返してとても時間がかかりました。論文は奥深いし，とても面白いなと思いました。論文の内容にも興味を持てたので関連する他の論文についても読んでみたいと思いました。

・卒論発表会のように練習になったのでは

ないかと思う。言いたいこと、伝えたいことを時間内で伝えることの難しさを痛感した。

4)の質問結果：

- ・自分で18報分の論文を読むとなると、とてもじゃないけどすごく時間がかかると思うので、みんなが紹介してくれてたくさんの論文の内容を理解することができてよかった。いい時間でした。
- ・よくまとめることができているなと思いました。発表の仕方、資料の作り方等参考にしたいと思いません。
- ・食に関する様々な分野のことを知ることができ、より深く理解できたのでよかった。

5)の質問結果：

- ・小学生ぶりの工場見学でしたが、とても楽しかった。ミカンについて学習してから行ったことで、また違った視点から見たり聞いたりすることができたし理解もしやすかった。
- ・自分がよく飲んでいるポンジュースがどのように作られているのか知れて楽しかった。
- ・ポンジュースがどのようにできるかや、β-クリプトキサンチンについても説明して下さったので、授業で学んだことと一致して面白かった。

6)の質問結果：

- ・論文のまとめ方や人をたきつける発表の仕方を学んだので今後に生かしたいと思う。
- ・実験系の論文をこれから読んでいくと思うので、多重比較検定の結果の見方等が分かって良かったと思う。
- ・論文作成における情報収集等に生かしたい。
- ・欧文や和文論文発表は、論文を読み、内容を理解し発表する力をつけるという過程全体の力がつくと思う。
- ・研究室が保育なので全て生かせるわけではないのだが、自分が選んだ論文は子どもと食事に関わるものなので、これからテーマを決めるときに参考にできる。
- ・これから論文を読む機会も増えると思うので、論文を読むという事になれるのにとっても役立ったと感じた。学んだ論文の読み方は卒研に生きてくる事は間違いない。

7)の質問結果：

- ・全体的に面白い授業でした。論文発表は卒論を見通してきちんと時間を計るべきである。
- ・欧文論文輪講など少し難しいところもあったが新しく知ることが多くて面白かった。
- ・卒業研究の練習として発表や論文の読み方を学べてよかった。
- ・食品について幅広く学ぶことができた。工場見学は実際に製造過程をみることで貴重な体験ができてよかったです。改善点としては、論文紹介発表時にタイムキーパーをつくってみてはどうかと思う。

6.成績評価に関して

欧文論文輪講に対する予習や欧文の発音・和訳発表ならびに論文紹介に対する予習や発表等を総合的に評価して成績とした。「秀」の評価を得た学生が半数であり、優の評価を得た学生は全体の35%であった。全体的に非常に講義には真面目に取り組んでおり、成績もよく欠席も少なかった。

7.総括

今年度は履修者が20名であったため、10名ずつの2グループに分けて、欧文論文輪講と論文読解・発表を交互に遂行した。昨年度より3回生に対し、欧文論文を輪講するという挑戦的な講義を試みているが、学生もそれなりに予習を行い、講義時には何の支障も無く輪講が進められた。従って、3回生後期には、卒業研究を見据えた講義の構築も可能であり、その必要性も改めて認識した。全4回の輪講で、論文一報を読破することができ、学生自身も達成感を感じたようである。また、論文発表時において、前半の学生の論文発表時には発表時間を厳密に管理していたが、後半の学生の発表時には、発表時間を学生の自由にさせた。その点が、学生のアンケートにもあるように反省点の一つであろう。来年度はその点を注意したい。昨年度は「青汁」、今年度は「ミカン」をテーマとして本講義を進めてきた。来年度は「ミルク」等をテーマとしての講義を構築し、より卒業研究に繋がるように工夫していきたい。